

日米文化教育交流会議（カルコン）

スミソニアン国立アジア美術館共催

「日米パートナーシップの形成——クリエイティブ産業、情報への
アクセス、サブナショナル外交」

カルコン・シンポジウム、2025年2月18日

議事次第

開会挨拶

09:00-09:10 am

- チェイス・F・ロビンソン 国立アジア美術館館長
- チャールズ・D・レイクII 米国側カルコン委員長

基調講演: クリエイティブ産業を通じた相互理解の推進

09:10-10:50 am

日本と米国は、映画、メディア、アートの「ソフトパワー」としての価値を共に認識している。日本政府は「2024年改訂版新しい資本主義の実行計画」において、クリエイターとコンテンツ産業の支援に政府が果たす重要な役割を明確に示そうとしている。コンテンツ産業は——効果を発揮すれば——想像力をかき立て、好奇心を育て、人同士の理解を促すことができる。日本からは、高名なゲストである都倉俊一氏、松岡宏泰氏が、クリエイティブ産業（日本では「コンテンツ産業」と呼ばれる）の活性化に向けた日本の取り組みについて官民それぞれの視点から語る。次いで、米国側カルコンのウィリアム・ツツイ副委員長がディスカッションの進行役を務め、映画『ゴジラ』（今やアカデミー賞受賞作品）に関する自身の研究を引き合いに出して、クリエイターが、文化的な発想やアセットの効果的なコミュニケーションを通して、どのような形で関心を生み出し人と人の距離を縮められるか——実際にそれが実現しているか——をめぐる考察を導く。

スピーカーの紹介（5分）

- チャールズ・D・レイクII 米国側カルコン委員長

基調講演のスピーカー

- 都倉俊一 文化庁長官（20分）
- 松岡宏泰 東宝株式会社代表取締役社長（20分）

パネルディスカッション、質疑応答（45～55分）

- 進行役: ウィリアム・ツツイ 米国側カルコン副委員長、オタワ大学総長
- 都倉俊一
- 松岡宏泰

パネル: デジタル化とAIが情報へのアクセスに与える影響

10:55-11:45 am

デジタル化とAIが、日米両国の社会における、信頼できる情報の拡散に与える影響をトピックとして扱う。高等養育機関、マスメディア、IT業界の専門家は、情報をめぐる現在の状況を形作る上でどのような責任を負っているか。信頼できる情報の提供と共有にどのように取り組むか。デジタルリソースの有無が、日本研究と米国研究をどう変えるか。それが今後の日米パートナーシップにとって何を示唆するか。責任あるデジタル変革とリソースの共有の推進をめぐる、「カルコン情報共有とアクセス ワーキンググループ」での多様な議論の背景を含めて、トレバー・ダウズ氏が導入のコメントを述べる。続いて3人のパネリストが、日米パートナーシップに関わる学生、研究者、リーダーの信頼できる情報へのアクセスを拡大するための手法と倫理について議論する。

冒頭コメント/進行役 (10分)

- **トレバー・A・ダウズ** 米国側カルコンパネリスト、「情報共有とアクセス ワーキンググループ」米国側座長、デラウェア大学メイモリス大学図書館司書、図書館・博物館担当副学長

パネルディスカッション、質疑応答 (40分)

- **道傳 愛子** ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワーセンター特別上級研究員
- **エミリー・シングレー** エルゼビア北米図書館関係バイスプレジデント
- **高橋 裕子** 日本側カルコンパネリスト、「情報共有とアクセス ワーキンググループ」日本側座長、津田塾大学学長

ラウンドテーブル: 日米サブナショナル外交の推進力

11:50-12:50 pm

カルコンはデータに裏づけられた証拠に基づき、サブナショナル外交の役割と、それが日米パートナーシップに与える効果をめぐるディスカッションを積極的に開催し、これに参加している。このラウンドテーブルでは、日米同盟における人的交流の重要性に注目する。登壇者のうち、メアリー・アリス・ハダッド氏は、日米同盟の深化に寄与した地域的イニシアチブに関するケーススタディや他のデータを収集する現在継続中の研究について語り、ロリ・ダガン・ゴールド氏は、国立アジア美術館の歴史とサブナショナルエンゲージメントへのアプローチについて洞察を示す。ジェシカ・リビングストン氏は、JETアルムナイが日米関係を支える人材となる可能性に触れ、小山田真氏は、日米姉妹都市の成果と今後の可能性に焦点を当てる。外交関係の専門家として知られる米国側カルコン元委員長のシーラ・スミス氏が進行役を務める。

冒頭コメント/進行役 (10分)

- **シーラ・スミス** 米国側カルコン前委員長、外交問題評議会アジア太平洋研究シニアフェロー

ディスカッション (50分)

- **メアリー・アリス・ハダッド** カルコンサブナショナル外交米国側WGメンバー、ウェズリアン大学政治学教授
- **ロリ・ダガン・ゴールド** 国立アジア美術館運営渉外担当ディレクター
- **小山田真** カルコンサブナショナル外交日本側WGメンバー、日米姉妹都市協会 (JUSSCA) 創業理事長
- **ジェシカ・リビングストン** カルコンサブナショナル外交と地域間交流の促進」ワーキンググループ米国側WG メンバー、米国JETプログラム・アルムナイ・アソシエーション (USJETAA) エグゼクティブディレクター

閉会挨拶

12:50-12:55pm

- **佐々江賢一郎** 日本側カルコン委員長

昼食プログラム

1:00-2:00 pm

*ランチタイム参加者に昼食を提供 (非公開)

- **ルーム1: Library**
 - プログラム: 国立アジア美術館ディレクターのチェイス・ロビンソン氏が中心となって、選ばれたCULCONメンバーやゲストと共に、政策や芸術に関するディスカッションを実施。
- **ルーム2: Flex Space**
 - プログラム: 同美術館日本美術キュレーターのフランク・フェルテンズ氏が中心となって、デジタル技術を活用した同館コレクションの共同管理に焦点を当てて、アートとテクノロジーに関するグループディスカッションを実施。
- **ルーム3: Conference Room**
 - プログラム: 同美術館映画キュレーターのトム・ヴィック氏が中心となって、第二次世界大戦後の占領期から今日に至るまでの、日本の映画とポップカルチャーに対するアメリカ独自の愛、そしてアジア映画についてディスカッションを実施。

現地視察 1: 国立アジア美術館 (NMAA)

[メンバー向けの舞台裏ツアー、フリーア美術館、または他のNMAAアーカイブ]

現地視察 2: 米国立公文書館

3:00-4:30 pm

*移動用バスをチャーター

[カルコン代表団を対象とした米国立公文書館視察]

自由時間/休憩

5:00-6:00 pm

日本大使館主催のレセプション

6:30-8:00 pm

[招待リストの選定、大使が公邸でゲストをもてなす]